

## A. M. 英語英文学科・3年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

小学生の時に、KBS 京都で放送していた台湾ドラマがきっかけで、台湾を意識するようになりました。その後、台湾の歌手や俳優にも興味を持つようになり、ますます台湾に惹かれていきました。大学生になり、第2外国語の授業で中国語を本格的に学び始め、中国語を勉強することが楽しいと思い始めました。中華圏からの旅行客が増えたこともあり、中国語は英語と同じくらい影響があるものだと改めて考えさせられました。2年生になり、夏休みなどの長期休暇を利用して私費で短期間台湾に語学留学をするか、または専門の英語を磨くために交換留学制度を利用して英語圏に留学するかを考え始めるようになったちょうど同時期に、同女が静宜大学と協定を結んだという情報を耳にして、これはきっと何かの縁だと思い台湾留学を目指すようになりました。

#### ② 留学を目指してから出願までの学習方法

当時の中国語の能力では中国語の資格で出願することは難しかったので、英語の資格で出願することにしました。IELTS 受験に向けて模擬試験付きの参考書を買って練習したり、インターネットで試験のコツを調べたりしました。一度、無料で受講できる IELTS のセミナーもあったので、進んで参加しました。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

1年生の時に授業で使用した中国語の教科書で復習をしました。また「HSK 単語」という一部有料の単語学習スマートフォンアプリを使用して、空いた時間に単語を覚えるようにもしました。この時は、簡体字で勉強をしていました。ビザの申請ですが、大阪にある台日経済文化代表処に手続きをしに行きました。平日の午後5時が業務終了時間なのですが、授業の関係で平日の夕方4時半ごろそこに到着しました。すると、ある一人の女性受付係員に「もっと早く来てよ!」「会計終わったよ!」と大変お叱りを受けました。このようなこともあるので、早い時刻に行かれることをおすすめします。また健康診断ですが、HIVの検査を受けるよう指示されていたので、その検査を実施しているかどうかいくつかの病院に電話で問い合わせをしました。インターネットではあまり情報が載っていなかったの、自分で直接問い合わせたほうが良いと思います。

#### ④ 現地到着後

事前に申し込みをしておくと、ボランティアの学生たちが空港で留学生たちを出迎えてくれます。中国語はもちろんですが、英語や日本語が堪能の学生もいたので安心しました。その後は、学校側が手配したバスで2時間ほどかけて台中にある静宜大学に行きました。留学生全体のオリエンテーションは寮や学校の説明が主で、その日の午後授業登録の仕

方の説明を受けました。その際には、日本人の先生や前期からの日本人留学生もいたので、分からないことがあれば、なんでも聞けると思います。

## ⑤ 語学研修期間

### ◆ 語学研修先の施設・環境について

女子寮から語学学校がある建物の Peter Hall までは、歩いて約 5 分ぐらいです。語学学校は Peter Hall の 4 階にあります。英文学科と日本語学科の授業は、基本的にこの建物です。

### ◆ 授業内容、課題、試験

基本的に 2 つのオプションが選べます。オプション 1 は 1 週間に中国語 10 時間と正規科目 11 時間、オプション 2 は中国語 20 時間と文化科目 3 時間です。私はオプション 1 を選び、毎朝 8 時から 10 時まで中国語の授業を受けていました。クラスは中国語のテストでレベル分けをされますが、語学学校の授業が始まって 1 週間以内は自由に変更が可能です。私は先生に相談をした上で、特にクラスの変更はしませんでした。レベルにもよりますが、私のクラスは日本人 7 人と韓国人、スペイン人の計 9 人のクラスで、基本的には少人数クラスです。授業内容は教科書に沿って先生が口頭で説明するのが基本でしたが、教科書の音読や、文章作りなどペアワークも多かったです。宿題はほぼ毎日あり、新出単語や新しく習った文法を使って文章を作ったり、教科書の質問に答えたりするものでした。私の先生は中間や期末テストは実施せず、その代わりに第 1 課、第 2 課というように、2 課分合わせて大きなテストを実施していました。また、1 課終わるごとに単語テストもありました。

## ⑥ 正規科目履修期間

### ◆ 大学の施設・環境について

学内は緑豊かですが、本当に坂が多いです。なので、一つ一つの建物が近いようで遠く感じます。色々と建物はありますが、日本人留学生が授業で基本的に使う建物は、先ほど述べた Peter Hall かなと思います。学内には約 3 か所食堂があり、ファミリーマートなどのコンビニもあるので、食事に困ることは少ないと思います。体育館やジム、プールなどがあり、事前にお金を払い申し込めば利用できます。また静宜大学の図書館はとてもおしゃれな内装で広く、仮眠スペースなどもあり、特に用事がなくても行く価値があるなど個人的に思いました。

### ◆ 履修科目

#### ・ Culture Learning

大変アクティブな授業だと思います。普段は教室でディスカッションをしますが、計 3 回のフィールドトリップや、Service Learning Program（ボランティア活動のようなもの）など、とても充実した文化学習の内容で、留学生同士も仲良くなれます。ヨーロッパからの留学生が多く、全体的に授業の英語レベルは高かったです。提出物が多く、フィールド

トリップの感想 3 回分、ボランティア活動の感想文、期末レポート、そして 2 回のグループプレゼン、期末レポートに沿った個人プレゼンがあり、それらが評価基準になります。

#### ・ Introduction to Taiwanese Culture Studies

英語での授業です。シラバスには履修条件として TOEIC600 と記載されていましたが、確かに英語の能力は高ければ高いほど良いですが、そんなに身構える必要はないです。民族や結婚、宗教などテーマに沿った様々な映画を見て、グループでディスカッションをすることが主でした。レポート提出やペーパーテストはありません。最終、自分が興味のあるテーマを、台湾と自国を比較してプレゼンするというものでした。

#### ・ 近代台日経済史

日本人の先生が開講している日本語での授業です。日本と台湾が経済において、どう関わりあっているのか、また経済だけでなく台湾の歴史にも触れることができました。当初は中間と期末にレポート提出が求められていたのですが、結局個人でのプレゼンのみになりました。テーマは自由で、日台経済に絡めるようなものでした。

#### ⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は部活には属していなかったのですが、バドミントンやバスケットボール部に入っている留学生は多かったです。日本人の先生の提案で、留学生と一緒に様々なボランティア活動に参加しました。例えば芋ほりのフェスティバルで、現地の方と一緒に農作業をしたり、ダンスを披露したりもしました。また、静宜大学の国際センターが日本語のボランティアを募集していたので、積極的に参加意思を伝え、実際に現地の高校を訪れ、自分なりに工夫した授業をしようと努めました。このように、大学生だけでなく高校生とも触れ合う機会があり、新しい台湾の一面が見られたと思い、ボランティアに参加してよかったなと思います。

#### ⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

ずっと学内の寮に住んでいました。2、3 人部屋もありますが部屋数は少なく、多くの留学生は 4 人部屋に住んでいたと思います。私は日本人 2 人とインドネシア人 1 人の 4 人部屋に住んでいましたが、ルームメイトとの関係は大変良かったです。寮生活を始めて一番驚いたことは、寮内のトイレにはトイレットペーパーが一切なく、ほぼ和式のトイレしかなかったことです。また、ペーパーが流せないのも隣に設置されたごみ箱に入れるのですが、見た目や臭いの面でもなかなか慣れるものではありませんでした。食事は毎食外食でした。基本的に、昼食と夕食は 60 から 70 元（約 250 円）を目安に、学内学外で食事をしていました。早朝から営業している店や夜食専門店もあり、また毎週月水木には学校の横の敷地で夜市が開催されます。学校周辺には安くて美味しいお店も多く、食事に関して困ることはないと思います。

## ⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

3年生の春学期にマイナビに登録していたので、就職活動に関するマイナビからのメールはこまめにチェックしていました。WEB上で行われるセミナーにも参加したりして情報を収集していました。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

夜遅くまで友達と話をしたことや、台湾人が運転するバイクであちこち遊びに行ったり、台北 101 にカウントダウンの花火を見に行ったりなど、どれもとても楽しく良い思い出です。田舎に行けば行くほど、日本人ということを伝えるととても驚かれ、すごく歓迎されました。台湾は親日国家だとよく言われ、もちろん台湾人全員日本が好きとは言えませんが、日本語で話しかけられたりしておもしろかったです。悪く言うとお節介で干渉しすぎなところもあるかもしれませんが、良く言うと、とても親切で見ず知らずの他人でも助けてくれる人が多く、台湾は住んでいて居心地がよかったです。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学生活最初の1か月ぐらいは、環境の変化やストレスで体調を崩すことが続きました。日本にいる頃には現れたことがない症状も出たので、周囲に促されて病院に行って検査を受けたりもしました。結局環境の変化と疲れやストレスが原因と診断されたのですが、健康は大事だと再認識させられました。また、留学生活終盤に差し掛かったころにUSBがウイルスに感染してしまい、作成中の期末レポートをはじめ、大学1年生の頃から保存してきたすべてのファイルが閲覧できなくなりました。ウイルス感染なんて今まで他人事のように思っており、バックアップも残していませんでした。最終的に、パソコンに詳しい友人が5時間くらいかけて調べ上げ、すべてのファイルを復活させてくれたのですが、本当にあの時は頭が真っ白になりました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本以上にお年寄りや子供に優しいということです。台中は基本的にバスで移動するのですが、毎回バス利用時に目にするのが、お年寄りがバスに乗り込んできたら、出入り口付近に座っていた乗客が我先にと席を譲ります。もちろん優先座席はあるのですが、お年寄りの方たちもそれに慣れていらっしゃるようで、特に嫌な顔はされていませんでした。私は日本にいる頃、なにか恥ずかしさがあり、席を譲ることは積極的にできませんでしたが、台湾では一種のプレッシャーのようなものを感じていたため、ためらいなく席を譲っていました。また台湾は、性的少数者や菜食主義者、東南アジアからの移民が大変多かったです。LGBTに関するパレードが盛んで、よくニュースで取り上げられていました。素食と言って、肉を使わない料理の専門店があり、ある記事によると台北はアジアの中で最もベ

ジタリアンに優しい都市だともいわれていました。日本から 3 時間もあれば着いてしまう近い国ですが、こんなにも違いがあるのかととても驚きました。

### Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

#### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学生に対してとても優しくかったです。例えばバーベキューやハロウィンなど、留学生を対象としたイベントが多く、韓国、中国大陸、スペイン、スイス、アメリカなど様々な国の学生とも交流することができました。日本人留学生は、學伴とって、日本語学科の学生が言語パートナーにつきます。私はそのパートナーと一緒に旅行に行ったぐらい仲が良く、今でも連絡を取り合っています。また、ファミリーとって、一グループ 10 人くらいの家族という名の友達ができます。私のファミリーは、台湾人 1 人と日本人 2 人、中国人 7 人でした。言葉の壁はありましたが、みんな英語や中国語で頑張って意思疎通をして、新しい交友関係を築くことができました。大学自体は、市内からバスで 40~50 分ほどの距離にあります。いわゆる田舎ですが、いざとなったら学内にも学外にも何かしらあるので、そんなに困ることもありません。また、10 キロ以内なら無料でバスが乗れるので、市内に遊びに行くのも便利だと思います。残念な点は、まず寮が古く、決して綺麗とはいえませんでした。日本の一部の電化製品や、台湾で買ったドライヤーが部屋の机のコンセントに入らないこともあり、おそらく寮のコンセントの形が変形しているか、古いものなのだと思います。そして、私が履修していた授業はシラバス通りに進まないものが多かったです。履修登録期間が過ぎてから授業曜日の変更の知らせがあり、他の授業と被ってしまったため、一つの授業をドロップアウトせざるを得ない結果にもなりました。その他にも、提出物に関することで学生が振り回されることもありました。

#### ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

授業は日本と同じで、教科書、ノート、ペンが必需品です。パソコンは授業にはもって行かず、いつも寮に置いていました。化粧品は日本のブランドの物がたくさん売っていましたが、表示をよく見てみると、一部の商品は台湾製であったりするので、日本から持って行ったほうが安心だと思います。台湾は基本的にどこも暖房設備がなく、温暖な気候ですが、防寒具は必要です。

#### ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

残念ながら、英語に関しては大きく伸びたようには感じません。しかし、もちろん日本語が通じない環境なので、授業でも普段の生活でも英語を使う機会は多くありました。中国語に関しては、留学前はほぼ話せませんでした。日常会話はできるようになり、聞き取りも大きく伸びたかなと思います。

#### ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私が台湾に留学をすると伝えたとき、周囲はとても驚いていました。なぜ英文学科なのに台湾に留学するのか、なぜ中国語を勉強したいのかなど「なぜ」と聞かれることがとても多かったです。きっと台湾留学は、まだ日本では浸透していないと思います。だからこそ、自分で開拓するのはとても面白いことだと私は思います。静宜大学では、中国語の学習時間が0時間の学生もおり、1から中国語を学ぶ学生も少なくないです。なので、中国語に自信がなくても、一定の英語のスコアと台湾で勉強がしたいという気持ちがあれば、留学は可能です。私は、台湾に留学したことを後悔していません。

#### IV. 将来の目標

##### ① 今後の進路、将来の目標・夢

就職活動が落ち着けば、また中国語の勉強を再開しようと考えています。英語または中国語が活かせる仕事に就けたらなと思いますが、まだわかりません。大学卒業までには、中国語の資格が取れるように頑張りたいです。

#### V. 写真



10月にファミリーと一緒にバーベキューをしました！



言語パートナーと日本人の友達と一緒に、高雄に行きました。この時に臭豆腐を食べましたが、やはり臭かったです…